

卒業記念に素敵な贈り物

中央小校長が卒業生に陶板を贈呈

益城中央小学校をこの春卒業する6年生一人ひとりの「座右の銘」を入れた陶板盾が今年1月に完成し、卒業式で記念品として校長先生から手渡されることになりました。

この盾は、同校の大塚博資校長が趣味の陶芸を生かして、昨年10月から制作。素焼きと本焼きの間で、子どもたちに思い思いの文字を書き入れてもらいました。



卒業記念の陶板盾を手にする6年生



陶板盾に力強く書かれた「座右の銘」

出来上がった卒業生80人分の盾は、大きさや縦横はまちまちですが、深い青色で「挑戦」「未来」「努力」などの文字が大きく書かれています。子どもたちに感想を聞くと、「とてもいい思い出になります」「ずっと大切にしていきたい」と素敵な贈り物を喜んでいました。

大塚校長は、これまで11年間で10回のプレゼントを行ってきましたが、この春定年を迎えるため、今回が最後の制作。「何とか全員の分が揃い、思い出に残る卒業式になりそう」と感慨深げに話していました。

多年の功績に対し文部科学大臣から表彰状

町婦人会長の富田セツコさん（福富）

多年にわたる地域での社会教育活動の推進や、社会教育関係団体の活動に精励し功績のあった方に対して贈られる「社会教育法施行60周年記念社会教育功労者表彰」（文部科学大臣表彰）を、町婦人会の富田セツコ会長（福富）が受賞し、11月20日、文部科学省講堂（東京都千代田区）であった表彰式に出席しました。

富田さんは、昭和34年に婦人会に加入し50年間、支部組織の拡充や環境問題、地域づくり、交通安全運動などに貢献。平成2年から20年間、町社会教育委員も務め、青少年の健全育成に向けた施策作成や薬物乱用防止の普及・啓発などに尽力しました。

今後、さらなるご活躍をお祈りします。



受賞の報告に役場を訪れた富田セツコさん（右）



笑顔が好印象の永田忠幸さん（中央）と会長の西村亮さん（左）

目指すのはお百笑さん！

永田 忠幸さん（堂園）

1月20日、熊本県庁で第49回熊本県青年農業者会議が開催され、就農2年目までの青年農業者を対象とした「若人の主張」で、意見発表をした永田忠幸さんが、最優秀賞にあたる『秀賞』を見事受賞しました。

永田さんは、「百笑が変われば農業が変わる。農業が変わると、子どもが変わり、未来が変わり、笑顔が増える!!自らも笑顔を絶やさず、喜びをいっぱい増やすお百笑さんになりたい!」と会議でも発表したフレーズを念頭に置き、頑張りたいと話していました。

6月中旬には九州大会に出場予定です。今後の活躍を期待しています。